

健康と光線

病気の原因

意外かも知れませんが、何も分らない幼児が医学者が一堂に会して病気について議論をたたかかせているところに入ってきて、「どうして病気になるの?」と聞いたら、その質問に自信をもって答えられる人は恐らくおりません。それは、病気について詳しく研究されている割に、何故、病気になるのかについては未解決な点が多いからです。病気の原因は錯綜していますし、未だに人智の及ばないところがあります。しかし、筆者は、健康と病気とは一事実の表裏であり、生体の機能が健全に働かない状態が続くことが、病気の原因の相当部分を占めていると考えています。この点から、光線が生理作用に及ぼす影響について、もっと注目しなければなりません。特に、日本のように地理的に光線に恵まれた国でも、文明の進歩は否応なしに生活環境から光線を奪いました。これが成人病やアレルギー疾患や精神身体疾患などの増加をもたらした一因をなしているのです。

内因と外因

(四、五面および七、八面参照)

殆どの病気は、内因に外因が加わって発病します。例えば、感染症の場合でも、感染と発病は別であって、発病には個体の要因、すなわち、内因(抵抗力)が関わっています。ところで、光線は、個体の免疫系、神経系、内分泌系の機能を保ち、内因を強化する上で欠くべからざる働きをしています。この点に着目した前東京光線療法研究所長、宇都宮義真は、**「薬の不足は病気の原因にならないが、光線の不足は病気の原因になる」**と言いつ切り、光線不足がもたらす内因の欠陥、すなわち、前述の機構を介して保たれている生体恒常性(ホメオスタシス)が失われることを重視する必要性を強調しましたが、正に至言と言うべきです。この言葉の持つ重みは、光線の作用が解明されるに連れて次第に増しつつあります。

免疫機能と光線

昔から、新鮮な空気と日光は

発行所

〒153 東京都目黒区目黒 4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行

会費年500円

電話 東京(03)

3793-5281

3712-5322

健康によいと言われ、夏、日光浴をしておくと、冬、風邪を引かないと言われたのは、元もとは経験的事実に基づいたものでしょうが、今の知識で言えば、日光が皮膚でビタミンDをつくるからです。ビタミンDは、腸からのカルシウムの吸収を盛んにするだけでなく、免疫の働きを強める作用があります。しかも、食物では補うことが難しいため不足しがちなビタミンなのです。

このように免疫力を強める作用は、予防医学の面から言えば、単に感染症にかかりにくくするだけでなく、アレルギーに強い体質をつくり、ガンを予防する効果につながります。また、治療医学の面で考えますと、個体に備わった自然治癒力(抵抗力)を高めますから、殆どすべての病気の治癒転を促すことが期待できます。

光線不足は病気の原因

——“内因”を重視せよ——

サナモア中央診療所 医学博士 宇都宮 光明

自律神経・内分泌系機能と光線

最近、視覚を介する光線の作用が注目されています。光が眼の光受容器に作用して、生物リズムの生成または同調(体内時計)に關与します。この機能を支配する因子が、松果体でつくられるホルモンであるメラトニンであることが分かりました。

メラトニンの分泌には日周期があります。すなわち、光が眼に入るとメラトニンの分泌が減少し、暗くなるとメラトニンの分泌が増加しますが、このホルモンは、視床下部・脳下垂体に働きかけ、消化、吸収、代謝、循環、食欲、性機能などすべての自律神経・内分泌機能に關係しています。したがって、生体のリズムが乱れると、実に様々な愁訴が起きます。特に、冬から春先にかけて、精神状態が不安定(不定愁訴症候群)になって内科を受診する患者は、5-10%あるといわれますが、光療法で改善することが明らかにされました。

おわりに

サナモア中央診療所でも、自律神経失調症を始め、ノイローゼ、更年期障害、情緒不安定、うつ病などの患者に、起床時に目を閉じて顔に10分-30分照射させることによって、症状が改善した例を経験しています。

殆どの人は、どうして病気になったんだろうと、わが身の不運を嘆かれます。勿論、不可抗力としかなえない場合もありますが、むしろ多くはこれまでの生活習慣が誘因ないし原因になっています。中でも光線不足は、即ビタミンDの不足と同じことです。ですから、栄養的にみても弊害を重視しなければなりません。病気になるのは、決して運が悪いただけではなく、また、生活習慣を改めることで薬や手術以上の効果があることも珍しいことではありません。

今や65歳以上の人が、人口の10%を越えました。これからの高齢化社会を元気に生き抜くためにも、光線が様々な生体機能に密接な関わりをもつことを思い起こし、サナモア光線療法を大いに役立ててください。

あけまして

おめでとう

ございます

平成三年 元旦

サナモア光線協会

(五日より営業します。)

「石廊崎灯台」

宇都宮義真撮影



讃光譜



治療医学と予防

医学の一致

現代医学では、とかく結果を急ぐ性急な方法、すなわち薬物療法や手術療法が多く用いられています。しかし、多少は遠回りになっても、身体にある防御力、つまり抵抗力(自然治癒力)を強くして、自然に病気に勝つようにすることも大切です。

病気になるのは、その人がその病気にかかり易くなったからです。したがって、症状を薬で一時的に無理やり押さえ込んで、あるいは悪い部分を切り取っても、病気にかかり易い体質はそのまま残っています。その上、これらの治療法の大半は、予防医学には役立ちません。

むしろ、これからの医学で求められるのは、予防医学にも役立つ治療医学です。ほとんどの場合、病気になる易い人は、病気が重くなり易く治りにくいということであり、病気になるににくい人は、病気が軽く治り易いということです。そこで、どうしたら病気になるににくい身体をつくることができるか、更にすすめて、その方法で病気を治す

ことができないかを研究する必要があります。

薬の効果と治癒力

多くの人は、薬の効果を過大に評価し過ぎており、反面、自分の中にある治癒力を過小に評価し過ぎています。無論、薬には「原因療法薬」としてなくてはならないものもありますが、大部分の薬は「対症療法薬」です。それ故、よく効くという薬は、実はよく症状を消しただけで、本当に治したのは個々の患者の治癒力なのです。

例えば、腰を痛めた時、その人の年齢で治る日数に差が出ますが、これが治癒力の差です。風邪も、よく効く風邪薬とは熱や痛みによく効く薬のことで、風邪の原因のウィルスには何の効果もありません。却って、よく効く薬は、それだけ副作用が出易く、身体には有害ですから、抵抗力が衰えて風邪は長引き、稀に命に関わることもすらあります。

また、足りないものを補っても、治癒力(吸収力)がなければ無駄になります。一例を挙げると、化骨に必要なカルシウムを十二分にとっても、ビタミン

Dがなければ吸収されませんから、骨が強固になることはありません。もし、カルシウムをとれば治るのなら、骨の脆い人は直ぐ全快するはずですが、何時までたっても治らないだけでなく、却って悪くなる人もいるのは、ひとえにカルシウムを利用

医学の新分野

宇都宮 義真

医学の新分野を

拓く光線療法

光線は何千年も昔から、健康法や治療法として用いられてきました。しかるに、昨今の私た

ちの周囲を見ると、汚れた空気、どんよりとした日光、日当たりの悪い家、室内でばかり暮して外に出ない人など、光線と疎遠な暮らしの様々な情景が目につきます。このように、すべてに光線が不足した状態が何年も続き、日々の疲れが積もり積もって、身体の抵抗力が弱ってしまい、遂に病気になる人も少なくありません。そんな人には、清浄な光線と休息が何物にも勝ります。

サナモア光線療法は、自然の光線のすべての作用を応用した療法ですから、健康面、予防面のみならず、いろいろな病気の治療面で卓効があつて極めて当然なことです。しかし、多くの人が、信じられない「奇蹟」と思うのは、如何に長い間、薬と手術を過信するように仕向けられてきたかの証拠でもあります。

今、自然の光線の偉大な力を利用した新しい医学分野を開拓することが求められています。サナモア光線療法は、自然の光線と同じ光線を利用し、若さと健康と長寿を保つ、医学の新分野を拓く魔法の光です。

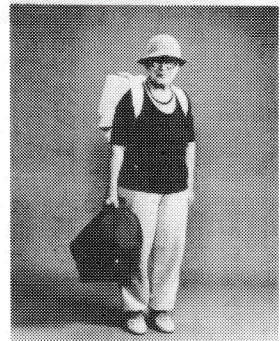
「健康と光線」

昭和四十年五月五日発行

I 医学の新分野 I



①



②



③



④

写真①戦後のサナモア、②③往診スタイル、④個展会場

用のカバンを作ってサナモアを持ち運びました(写真3)。

何事によらず、新規に開発する苦労は並大抵のことではありません。途中で挫折しそうになったこともあります。でも、信念と真心でぶつかってきました。

「後記」 亡父から、上野先生

の成功秘話をよく聞かされました。先生は朝起きると朝食もそこそこに器械を担いで飛び出し、午前の往診治療を済ませてから、午後は治療院で治療をする、息付く暇もない暮らしをされたとのことでした。そんなこともあって、先生に苦労話の一端でも聞かせてほしいと頼みました。そのご返事に写真を添えて送って下さいました。

なお、先生は、盆石、盆画、書道、デコパージュ、ちぎり絵と趣味も多彩で、昨年十月には二回目の個展(八十七才のあゆみ展)を開いておられます(写真4)。

(宇都宮)

新春随想

リュックサックの思い出

ウエノ光線療研 上野 貞

知ってる人も見当たりません。

サナモアの看板を出して待って

いても、患者は一人も来ません。

そこで、人づてに寝たきりの病

人のいるところに往診して治療

をすることにしました。その頃は、

まだ戦後の混乱が続いていて、

皆、困っていました。私も

困っていましたが、苦しんでい

る人を助けることが出来ないか

るか考えました。

どうして光線治療をして生活す

るか考えました。

神戸には、全

然と言ってもい

ほど知人は居り

ませんし、サナ

モア光線治療を

知ってる人も見当たりません。

サナモアの看板を出して待って

いても、患者は一人も来ません。

そこで、人づてに寝たきりの病

人のいるところに往診して治療

をすることにしました。その頃は、

まだ戦後の混乱が続いていて、

皆、困っていました。私も

困っていましたが、苦しんでい

る人を助けることが出来ないか

ス賃や電車賃は拾円でした。

ここでもリュックサックが活

躍しました。往診治療には、ト

ランスをリュックサックに入れ

て背負い、器械の頭の方は手作

りの袋に入れて、手にぶらさげ

て出かけました。その時のスタ

イルを思い出して撮った写真で

す(写真2)。

誠意を以て努力すれば、神は

たりリュックサックの代わりに専

常識の不備

成人病は、ある日突然、働き盛りの年齢層を襲う恐ろしい病気を総称した病名ですが、音もなく近づき、いったん発病したら治療は長期にわたり、根治が難しいだけであ

続々 カルシウムは健康の礎 (その2)

成人病は“生活習慣病”

—— 光線欠乏の“こわーい”働き ——

サナモア光線協会 医学博士 宇都宮 光明

根治が難しく、死をもたらすことすらあります。この成人病には、日本人の三大死因の、ガン、虚血性心臓疾患、心筋硬塞、脳血管障害(脳硬塞や脳出血)を始め、高血

でなく、素因、生活習慣と深い関係がある。

二、最初は殆ど自覚症状がなく、知らぬ間に進行し、中年以降に発病する。

三、症状が表に出た時は、既にかなり進んだ状態である。

四、同時に幾つかの成人病が重なって起きることも多い。

したがって、成人病対策でまず成すべきことは、予防対策です。これまで予防対策として、

食習慣(塩分や脂肪の摂取過多、ビタミンAや食事性繊維の摂取過少など)、肥満、ストレス、

煙草、酒、運動不足などが危険因子として挙げられ、最近では、

若い頃からこれらの危険因子を避けるようにすることが常識になっていきます。しかし、光線欠乏が成人病の危険因子になるこ

とについては、光線欠乏に対する認識の甘さもあって、未だ常識の域には達していません。

光線欠乏は成人病の危険因子

危険因子

圧、動脈硬化、糖尿病、肺炎腫、肝臓病、痛風、骨の退行性変化(骨粗鬆症)などが含まれます。無論、これらの病気はそれぞれ別の病気ですが、共通した次のような特徴があります。

一、ただ単に加齢によるだけ

新鮮食品100g中のビタミンD含有量

シイタケ	6IU	本マグロ(生干)	100
牛乳	2	ブリ(生)	360
人乳	5	サンマ(生)	340
バター	80	カツオ(生)	420
ウシ肝	100	カツオブシ	430
レバーペースト	90	ウナギ(かばやき)	170
卵黄	30	ウナギ(きも)	90
全卵	10	サバ(生)	330
サケカン(紅色)	800	マイワシ(生)	530
マス(生)	210	マイワシ(メザシ)	140
マス(塩)	370	サツマアゲ	450
ボラ(生)	100		
ワカサギ	30		
本マグロ(生脂身)	1300IU		

(科学技術庁資源調査会編)

ミンドあるいはカルシウムは、単に化骨に関係するだけでなく、生体のいろいろな機能に非常に重要な作用を及ぼします。

ところで、体内のカルシウムが不足する原因は、次の二つに大別されます。

一、光線欠乏によるビタミンD欠乏症

二、カルシウム摂取量の不足

このうち、カルシウムの摂取量については、前号の「応用光線療法学」に記述したように、なお若干の不足が指摘されていますが、現状は食生活の向上でほぼ満足できる状態にあり、加えて昨今、人々の関心を集めていることから、今後、一層改善

することは間違いのないものと思われま。それより、文明の発達に伴う生活習慣の変化が、必然的に光線を浴びる機会を奪うことから、光線が欠乏した際の悪影響について認識を深める必要があります。然るに、大半の人は無関心です。

考にして表を見ていただくと分かるように、魚肉以外の食品では補えないことが明らかです。したがって、光線が欠乏すると、即、ビタミンD欠乏状態を起こすと考えて大きな誤りはなく、結果的に、カルシウム摂取量の如何にかかわらず、カルシウム不足を招く可能性があります。さて、カルシウムの99%は骨にあります。骨は、一方で新しく形成され、他方で破壊、吸収されて、常につくりかえられています。カルシウムが不足して、骨吸収が骨形成を上回る負のバランスが長期に続くと、カルシウムは徐々に骨から抜け出て、骨粗鬆症を起こすこととなります。しかも、この変化は骨だけに留まりません。

カルシウムは生体が機能を保持する上で極めて大切な電解質ですから、カルシウムの吸収が不十分で血液中のカルシウムが不足すると、カルシウム調節ホルモンが働いて、過剰な骨吸収を起こし、大量のカルシウムが血液中に動員されます。しかし、血液の中のカルシウムが多くなり過ぎると、意識障害を起こし、命に関わる事態を来しますから、

△五ページにつづく▽

△四ページからつづく▽

生体は直ちにカルシウムを組織内や細胞内に逃がします。その結果、組織内や細胞内のカルシウム濃度は異常に上昇し、それに伴って組織障害や細胞の機能障害を起こしますが、その一環として、成人病の危険因子として作用します。

成人病とカルシウム

カルシウムが欠乏するとさまざまな障害を起こします。以下、特に成人病に関連する代表的な事例を挙げて説明します。

一、動脈硬化とカルシウム

加齢に伴って、程度の差はありますが、誰にでも起きるのが動脈硬化です。しかし、起こす速度は決して一様ではありません。この動脈硬化の程度を知る一つの目安として、動脈へのカルシウムの沈着があります。カルシウムが沢山沈着している人ほど、動脈硬化が進んでいると考えられているからです。

カルシウム不足が続くと、骨の粗鬆化を起こすだけでなく、前述したように、動脈組織内のカルシウム濃度が上昇し、カルシウムの沈着を促します。そこで、骨量（骨の粗鬆化の程度を

示す）と動脈硬化の関係を調べますと、骨量が減少している人ほど動脈のカルシウムの沈着が多く、動脈硬化が進行しているのに対し、骨量が減っていない人はカルシウムの沈着が少なく、動脈硬化を起こしていません。

二、高血圧とカルシウム

塩分のとり過ぎが高血圧の悪化因子になることはよく知られていますが、カルシウムの不足が高血圧の要因になることは余り知られていません。

コーネル大学のレスニック博士は、カルシウムの高血圧に対する治療効果を検討した結果、満足すべき降圧作用を認めたことから、安易に副作用のある降圧剤を服用しないで、カルシウムを豊富に含有し、ビタミンDが添加されている牛乳（アメリカでは添加されていますが、日本では添加されていません）を一日1リットル飲んで、血圧の状態を調べるようにアドバイスしています。また、ジョンズ・

ホプキンス大学のピラー博士は、特に妊娠後期にみられる高血圧が、ビタミンDとカルシウムを補給することによって防げることを明らかにしました。

この際のカルシウムの降圧効

果は、次のように考えられています。すなわち、カルシウム不足は過剰な骨吸収を起こしますから、それに伴って動脈組織のカルシウム濃度が上昇し、動脈の平滑筋が収縮して血圧が上がりますが、必要なカルシウムを吸収することによって、骨代謝が正常になり、組織内カルシウム濃度が低下するからです。

事実、組織内のカルシウム濃度を低下させるカルシウム拮抗剤に、動脈硬化を予防し、血圧を下げる作用があります。

三、免疫機能とカルシウム

ビタミンDの欠乏、細胞内カルシウム濃度の上昇は、免疫担当細胞の機能を障害し、免疫機能を低下させます。例えば、若年者の肺炎は比較的容易に治るのに、高齢者に見られる老人性肺炎が、常に死因の上位を占めているのは、偏に免疫機能が低下しているためと考えて間違いないかもしれません。

ところで、ガンの発病に免疫機能の低下が関与している可能性が強く示唆されていますが、ガラランドらは、日照に恵まれた地方の人は、ビタミンDの欠乏やカルシウム不足を起こしにくく、したがって、免疫機能が

作用してガンにかかりにくいことを明らかにしました。（本紙No.250・No.251・続・カルシウムは健康の礎参照）

ガラランドらの研究の要旨は、近年、世界的に増加が著しい、乳ガンと結腸ガンの罹病率、死亡率には際立った特徴があり、地理病理学に日照に恵まれた地帯で低く、同じ緯度では都会より田舎ほど低い値をとることに着目し、この地域差の要因について、一般にガンとの関連が指摘されている他の要因（食事など）をも含めて詳細に検討した結果、結論的に、光線の不足がビタミンD欠乏状態とカルシウムの不足を招き、細胞内カルシウム濃度の上昇が細胞の異常分裂を起こすことが主因になると報告しています。

四、糖尿病とカルシウム

この点については、本紙七、八面に、海渡先生が第二回日本療術学会で発表した、糖尿病の治療例の講演内容を参考にしてください。

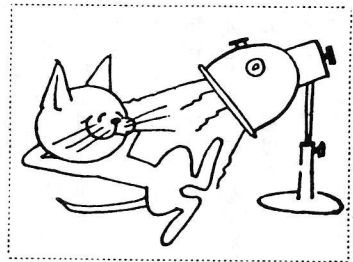
成人病の予防対策

古来、君子は危うきに近寄らず」といいます。これまで述べた通り、ビタミンDの欠乏、

カルシウムの不足が成人病の危険因子になることは明らかです。から避けなければなりません。この際、カルシウムの摂取量については、前回述べたように、牛乳を一本追加して飲むようなちょっとした注意で解決し得ることです。

同様に、光線の欠乏の問題も、光線を浴びようと思えば解決は簡単です。具体的には、週に二、三回、光線を素肌に30～60分程度浴びれば大丈夫です。しかし、この点について言えば、医師をも含めて人々の光線的作用に関する現状の認識は甚だ不十分であり、これが問題解決のネックになっています。殊に高齢になるに連れて、ビタミンDの生成、カルシウムの吸収は何れも低下しますので、一層の関心と注意が肝要です。

空気、水、食物、光線は環境（健康）の四大要素と言われています。健康法はこれらを総合したところにあります。私どもが、食事をとると等しく光線を浴びよ！」と言い続けているのも、光線が生体の生理機能を正常に保ち、内なる自然の治癒力を高める上で、不可欠な作用を営んでいるからです。



一 治 験 例 報 告 一

☆右上腹部腫瘍

症例 50歳 女性

症状 右上腹部にテニスボール大くらいのかたまりがあり、日毎に痛みが強くなるため医師の診察を受けた。診察後、手術しなければならぬかもしれないと言われたが、手術をしたくないので光線療法で良くならないか相談に来た。そこで治療法を指導し、様子を見ることにした。

療法経過 BDカーボンを使い、腹10分、患部(右上腹部)は開放で20分、集光(一号集光器)して30分、膝5分、足裏10分、腰30分、背5分、小脳(後頭部)5分、朝夕二回照射するように指示した。

本例は一週間後に再来院したが、二、三回の治療で痛みがとれ、かたまりも段々小さくなった。

たので、再度医師の診察を受けたが、首をかしげて手術の必要はないと言われたと大変喜んでた。

神戸市 ウエノ光線療研
上野 貞氏報告

TEL078-139218303

☆高熱

症例 41歳 女性

症状 朝八時頃、激しい悪寒戦慄(寒気と身体の震え)と全身の筋肉の痛みが襲われた。体温摂氏40度。顔色は真っ青。手持ちの漢方の風邪薬を服用したが、暫くして全部もどした。

療法経過 直ぐに、BCカーボンで、二台の光線治療器を使って治療した。光線照射は全

身に行ったが、主として、一台は足裏に、他の一台は背に照射した。最初、熱は中々下がらなかったが、十二時を過ぎてから何時とはなしに七度台になって症状も軽くなり、元気が出てきたので、おかゆ、梅干し、薬用茶などで腹ごしらえをして、一、二時間してから夕方まで再度全身照射をした。その後は、熱は平熱になり、症状もなくなり、顔色も平常になって元氣を取り戻した。

このように、半日で良くなったので病名のつけようもないが、光線の効果を裏付ける所見になると考えたので報告した。

春日市 育美健康光線療研

前田 ミサ氏報告

TEL092-58112039

愛用三者だより

☆水虫

三重県三重郡 松島志津代

26歳の娘ですが、数年前より水虫が出来、それが硬化して魚の目のように成りました。数も三ツ四ツと増え、歩くとき痛むので入浴後に表面の硬い部分をけずりサナモアを毎日照射したところ、一週間であ

とかたもなくなり、本人は夢のようだと驚き喜んでいました。私は現在50歳を過ぎたばかりの主婦ですが、老眼で文字が読みとれませんので視力が良くなるよう祈る思いで照射に励んでいます。

☆白内障

岡山県撫川市 荒木 二郎

知人の紹介でサナモアを購入しました。私は明治43年生まれの80歳の老齢です。10月

☆胆道ジスキネジー

症例 42歳 女性

症状 右上腹部痛(右季肋部痛)に加えて、痛みは右背部に放散するので、病院で検査を受けた。症状は胆石症によく似て

いたが、胆石はなく、他にも病変が見当たらないため、胆道ジスキネジーと診断され、自宅安静にするように指示されたが、痛みが治まらないので来院した。来院時、右上腹部痛ならびに右背部に鈍痛があり、便秘がちである。

療法経過 ABカーボンを使用。側臥位で、右上腹部(胆嚢部・一号集光器使用)60分、足裏30分、背10分、腹10分、仰臥位で左右の肩5分、横腹に各15分、膝に各10分照射した。

治療後、痛みは始どなくなり、気分が良くなる。その後、症状を訴えなくなり、経過が良好なので、一週間治療を中断した。

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL044-7215067

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセッとしたり、サナモアABCDと効果が同じという根拠も無いような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので異々もご注意ください。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています)

東京光線療法研究所

光線療法による糖尿病の一治験例

川崎市 東京光線治療院 海 渡 一二三

糖尿病の血糖をコントロールする点では、インシュリンの発見とその後の抗糖尿病剤の開発とが相まって、ほぼ満足できる状況になったにも拘らず、糖尿病に伴う慢性合併症は減少せず、寿命も長くなっているのが実情である。一方、これまでの光線、特に紫外線に関する研究報告から、光線が糖代謝に影響を及ぼすことが明らかにされ、治療に有用なことが示唆されている。

(疑い)のため歩けない状態になった患者に光線療法を行ったところ、四カ月で自力で歩けるようになり、以来、今日まで良好な状態を保っている興味ある症例を経験したので報告する。

症 例

患者 43歳 男性 大工

主訴 歩行困難、知覚鈍麻、

やせ、冷感、発汗過多、口渇感、めまい、不眠

既往歴 10年以上前に会社の健康診断で糖尿病を指摘されている。

現病歴 初診は昭和49年5月。

四、五年前に糖尿病の症状がひどくなり、のどの渇き、全身倦怠感、発汗、耳鳴り、めまいなどを起こしたために入院した。入院後は、厳しくカロリーを制限され、インシュリンの注射、ビタミン剤や安定剤の投与を受けた。しかし、58キロあった体重は徐々に減り続け、症状は一向に改善の兆しを認めず、1年前からよく歩けないようになり、体重も急速に減少した。

この話を以前から光線療法を使用している親戚の人にしたら、ころ、光線療法を受けてみるようにすすめられ、入院していてもめどが立たないと思い退院して来院した。

初診時所見 患者は奥さんに

背負われるようにして来たが、見るからに憔悴していた。全身の皮膚は黒味を帯びた茶褐色で、目はどろんどろんとして黄色味が

かっていた。自覚症状として、やせ、のどの渇き、倦怠感、不眠、せきなどに加え、神経症状として、歩行困難、耳鳴り、めまい、立ちくらみ、手足の冷感、

発汗過多、神経痛、しびれ感、知覚鈍麻など多彩な症状を訴えていた。また、肩の注射のあとを非常に痛がっていた。なお、入院中は空腹でも食べさせてくれなかったといっていたが、体重は43キロしかなかった。

これまでの経過ならびに初診時の所見から、合併症の糖尿病性神経症を起したものとかわれたが、見るからに重症感があり、かつ体力の消耗も激しかったので、一度は治療を断った。

しかし、奥さんから、今の苦しみが少しでも楽になるなら助からなくてもよいから、是非に、と頼まれ治療することにした。なお、糖尿病の治療薬は、来院時には中断していた。

治療ならびに経過 体力の消

耗が余りにひどいので、まず食べることをすすめた。その上で、光線療法を併用して治療した。

カーボンは、主にAカーボンとBカーボンを組み合わせて使用し、二台の治療器を使う二灯照射法を用いた。照射部位は、側臥位で肛門部と足首、次に腰と膝、次に腹と足裏、次に後頭部に照射し、次いで体位を仰臥位に変えて、左右の肩、左右の横腹、左右の膝に横から照射した。なお照射時間は原則として各々十分としたが、肩のように痛みの強いところは時間を延長し、だるさを訴えていた腰から下はやや短めに照射した。言うまでもないが、状況、経過に応じて、カーボン、照射時間、照射部位は適宜調整した。

治療を始めてから、顔色が良くなり、赤みが出てきた。食欲は増し、よく眠れるようになり、のどの渇きは軽くなり、めまいや立ちくらみも改善し、咳もしなくなった。そして四カ月を過ぎる頃には、自分で歩いて通院できるところまで体力が付き、

体重は徐々に増加し、48キロから50キロになった。その頃になって、やっと愁眉が開けた感じがしたことを、今でも鮮明に覚えている。

その後も治療は続けていたが、昭和51年5月29日に、水田に入って田植の苗を配った後で、突然、顔面神経麻痺を起し、手を使わないと眼を閉じられなくなったのである。そのため、AカーボンとBカーボンで、顔面と両側の耳に、各10分追加して照射したが、約二週間後麻痺はなくなった。

本例は四年間通院して治療したが、日増しに健康を取り戻したので、昭和52年5月より自宅治療にしたが、今も二灯照射で治療を続けている。

ところで、職場復帰のための診断書のこともあって、昭和52年6月に大学病院で精密検査を受けた。その結果、糖尿病は良好にコントロールされており、糖尿病性神経症に伴う諸症状も改善していたので、職場復帰可

の診断書を書いたのである。し

(八ページへつづく)

(七ページからつづく)

かし、長期に休職したこともあって、直ぐには職場に戻して貰えず、他の職場で一年働いてから、元の職場に復帰した。なお最近では、平成1年9月に来院したが、すこぶる元気である。

考案ならびに結論

既に一九三〇年代に、光線、特に紫外線の糖代謝に及ぼす影響が検討されている。リップマン、フェルカーらは、健康者の血糖値に与える影響を調べ、血糖を下げる作用はないと報告している。一方、カルロス・デフナーやロスマンらは、糖尿病患者で血糖の値が病的に上昇している場合には、その値を下降させる効果のあることを報告し、ロスマンは最高で50%下降した例があると報告している。また、この効果について研究したデシユワンデンは、インシュリンの生成によると述べた。

これらの初期の研究報告からも、糖尿病の治療に光線療法を応用し得ることを知るが、近年になって、その作用機序の一端が解明された。すなわち、ノー

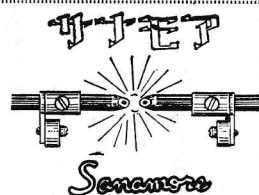
スキヤロライナ大学のストウンブらは、光線によって生成されるビタミンDおよびカルシウムの体内に於ける広範な作用を究明するために、ビタミンDを放射線同位元素で標識してその標的器官を調べた結果、インシュリンを分泌する膵臓のβ細胞が標的器官に数えられることを明らかにした。言うまでもないが、ビタミンDのようなホルモン作用を持つ生理活性物質は、標的器官に取り込まれた上で生理作用を営むのである。加えて、β細胞にビタミンDの受容体があり、またビタミンDによって厳密に生成が規制されているビタミンD依存性カルシウム結合蛋白が存在することが発見され、ビタミンDがインシュリンの分泌と密接に関係していることが強く示唆されるに至った。

この点に着目したカリフォルニア大学のノーマンらは、ビタミンD欠乏状態にした動物で糖を負荷した膵臓の灌流実験を行って、インシュリン活性が約50%低下することを明らかにし、ビタミンDが直接β細胞のインシュリンの分泌を促す作用のあることを立証しました。すなわち、間接的に光線の糖尿病に対する効果を裏付けたのです。

また、私は前回の本学会において、光線療法の原発性脱髄性疾患の多発性硬化症に対する治療効果を発表したが、その際に、実験的に光線を遮断してビタミンDを欠乏させると脱髄性変化を起こすが、光線照射によって治癒することを述べた。この点から、今回報告した糖尿病性神経症に対する光線療法の効果は、糖尿病に併発する二次性脱髄に對しても有効に作用した可能性を示唆している。

以上、光線療法が糖尿病の管理ならびに合併症の治療に有効なことを示す所見に、二、三の考察を加えて報告したが、これから症例を積み重ねることによって、一層の検討を加える所存である。

(第二回日本療術学会で発表した内容をまとめたものである。なお、本例は平成2年4月発刊の本紙に治験例として掲載した。)



サナモア 光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くしてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙、普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL(03)七九三-五二八一
七二一-五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)